



【先週のメッセージより】

高見澤栄子先生

## ～～母のように父のように～～

1テサロニケ 2:7 それどころか、あなたがたの間で、母がその子どもたちを養い育てるように、優しくふるまいました。

1テサロニケ 2:11-12 また、ご承知のとおり、私たちは父がその子どもに対してするように、あなたがたひとりひとりに、ご自身の御国と栄光とに召してくださる神にふさわしく歩むように勧めをし、慰めを与え、おごそかに命じました。

- **パウロの動機が疑われていた状況** 宗教者の布教の動機はいつでも問題にされるが、パウロも「迷っている」「不純な動機」「だましごとを言っている」「へつらっている」「むさぼっている」「人からの名誉を求めている」等、さんざん言われていたようである。
- **母のように・父のように** それに対してパウロは自分の宣教の動機を母のように自分自身を捧げ、父のように励ましながらか行くべき道を示してきたではないか、と弁明し、常にテサロニケの人々の霊的な成長を求めて来たことを訴えている。教会は神の家族である。そして先に育ったもの達が後のもの達のために、親や兄弟の務めをなし、成長を助け励ましていく場である。
- **自分を導き、影響を与えてくれた方々を思い出し、自分もまた人に仕えるものになろう** この箇所からの大切な適用は、自分も多くの方々に忍耐してもらいながら、励ましてもらいながら、指導してもらいながら、ここまで来られたことを思い起こすことである。そうするなら私たちは感謝することができるようになる。助けられることを恥ずかしく思ってはならない。やがて自分も他の信者に仕え、助けるのだ、というビジョンを描きつつ歩んで行こう。

### 【今週の英語】 Revelation of who I am

**"The people and circumstances around me do not MAKE me what I am, they REVEAL who I am." Dr. Laura Schlessinger**

周りにいる人々や状況が私をこんな風にしたのではなく、私自身の内側にあるものを表面化させるのである。ローラ・シュレスィンガー博士（人気の高い人生相談ラジオ番組のホスト。自身がユダヤ人であり、ユダヤ教的世界観をベースにいろいろと人々の相談に乗る。）・・・現代社会の風潮はなんでも人の所為にして自分自身には責任がない、と言い逃れをしようとするのであるが、そうではないと言っているのである。



## 【今週の暗唱聖句】

### 出エジプト 3 : 1 2

「わたしはあなたとともにいる。これがあなたのためのしるしである。わたしがあなたを遣わすのだ。」



●**神が私(私達)と共にいる**：宗教は弱い人がすぎるもの、とよく言われるが、人はもともと一人で生きて行くように造られてはおらず、また単に他の人と共にいればそれでいいというのでもない。人は神と共に生きるように造られているのである。旧約、新約問わず、神から赦され、義と認められた人々への神の約束はいつもこの「共にいる」というものである。

◆創世記26:3 あなた(イサク)はこの地に、滞在しなさい。わたしはあなたとともにいて、あなたを祝福しよう。

◆創世記31:3 主はヤコブに仰せられた。「・・・あなたの先祖の国に帰りなさい。わたしはあなたとともにいる。」

◆申命記31:23 ついで主は、ヌンの子ヨシュアに命じて言われた。「強くあれ。雄々しくあれ。・・・わたしが、あなたと

ともにいる。」

◆イザヤ41:10 恐れるな。わたしはあなたとともにいる。たじろぐな。わたしがあなたの神だから。わたしはあなたを強め、あなたを助け、わたしの義の右の手で、あなたを守る。

◆エレミヤ1:8 彼らの顔を恐れるな。わたしはあなたとともにいて、あなたを救い出すからだ。――主の御告げ。――」

●**私たちへの「しるし」は聖霊**：イエス・キリストの預言的名称は「イムマヌエル」(イムマ=with、ヌー=us、エル=God)とは「神は私たちと共にいる」という意味である。イエスが地上に来られた時に、まさに神が私たちと共にいたのである。では私たちに対する「共にいる」という約束は何か。それは「アバ父」と告白することを可能にする聖霊の臨在である。

◆ヨハネ14:16-17 わたしは父にお願いします。そうすれば、父はもうひとりの助け主をあなたがたにお与えになります。その助け主がいつまでもあなたがたと、ともにおられるためにです。その方は、真理の御霊です。世はその方を受け入れることができません。世はその方を見もせず、知りもしないからです。しかし、あなたがたはその方を知っています。その方はあなたがたとともに住み、あなたがたのうちにおられるからです。

●**神が共におられるのは「派遣」のため!**：考えて見よう。もし、神が私たちと共にいるなら、私たちはこの世で手にすることのできる最大最高のもの(お方)を既に手に入れているのであり、これ以上のものを求めることはできない。しかし一体何の為に神は共にいて下さるのか。旧約でも新約でも、神が「共にいる」と約束されるのは「派遣」「宣教」「行って実を結ぶため」の文脈であり、この地上で私たちが与えられた使命を果たすためである。神をもっと体験したいだろうか。神がくださる使命に生きよう! ■